

事務事業マネージメントシート

作成日 平成23年 05月 09日

事務事業名	真岡鐵道利用校外学習事業				担当	教育委員会 学校教育課 廉務係				
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-8180				
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業					
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ				
法令根拠	真岡市補助金等交付規則					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 平成元 年度~)				
予算科目	1.一般会計	10.教育費	1教育総務費	2事務局費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~ 年度)				
事業概要	○真岡線沿線の地域理解や、公共交通の利用マナーを学ばせるとともに、児童の夢を育むことを目的に実施する。 ○市内小学校の社会科見学や、小学2年生のSL乗車体験で真岡鐵道を利用した場合に、輸送経費を交付する。 平成22年度交付金内訳 社会科見学6,770円 SL体験等運賃477,180円 バス代1,457,400円 計1,941,350円 ○第三セクター「真岡鐵道」の利用促進を図る。									

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動)	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:交付金額</td> <td>千円</td> <td>1509</td> <td>1604</td> <td>1847</td> <td>1941</td> <td>2075</td> </tr> <tr> <td>イ:社会科見学で真岡鐵道を利用した学校数</td> <td>校</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ウ:SL体験乗車を行った学校数</td> <td>校</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:交付金額	千円	1509	1604	1847	1941	2075	イ:社会科見学で真岡鐵道を利用した学校数	校	2	2	3	1	3	ウ:SL体験乗車を行った学校数	校	15	15	18	18	18	エ:							オ:						
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																														
ア:交付金額	千円	1509	1604	1847	1941	2075																																														
イ:社会科見学で真岡鐵道を利用した学校数	校	2	2	3	1	3																																														
ウ:SL体験乗車を行った学校数	校	15	15	18	18	18																																														
エ:																																																				
オ:																																																				
22年度実績 市内小学校から交付申請書(計画書)を提出させる。輸送経費を交付金で交付する。・社会科見学小学校18校のうち3校で真岡鐵道を利用して、実施。見学場所は「ツインリンクもてぎ」、「久下田公園」「茨城県西総合公園」等・SL体験乗車小学校18校で全部が実施																																																				
23年度計画 平成22年度と同じ																																																				
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 ・全児童数(社会科見学)・小学2年生全員(SL乗車体験)	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:小学校全児童数</td> <td>人</td> <td>3944</td> <td>3957</td> <td>4840</td> <td>4808</td> <td>4777</td> </tr> <tr> <td>イ:小学校2年生の数</td> <td>人</td> <td>627</td> <td>690</td> <td>826</td> <td>794</td> <td>802</td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:小学校全児童数	人	3944	3957	4840	4808	4777	イ:小学校2年生の数	人	627	690	826	794	802	ウ:							エ:							オ:						
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																														
ア:小学校全児童数	人	3944	3957	4840	4808	4777																																														
イ:小学校2年生の数	人	627	690	826	794	802																																														
ウ:																																																				
エ:																																																				
オ:																																																				
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・真岡鐵道のSL乗車を通じ、公共交通マナーの向上を図る。・真岡鐵道の利用促進	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:地域の公共交通を理解できる児童数</td> <td>人</td> <td>618</td> <td>685</td> <td>810</td> <td>778</td> <td>787</td> </tr> <tr> <td>イ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:地域の公共交通を理解できる児童数	人	618	685	810	778	787	イ:							ウ:							エ:							オ:						
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																														
ア:地域の公共交通を理解できる児童数	人	618	685	810	778	787																																														
イ:																																																				
ウ:																																																				
エ:																																																				
オ:																																																				
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 児童に地域を理解し、公共マナーを身につけさせる。	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア:地域を理解し、公共マナーを身につけた児童数</td> <td>人</td> <td>618</td> <td>685</td> <td>810</td> <td>778</td> <td>787</td> </tr> <tr> <td>イ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア:地域を理解し、公共マナーを身につけた児童数	人	618	685	810	778	787	イ:							ウ:							エ:							オ:						
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																														
ア:地域を理解し、公共マナーを身につけた児童数	人	618	685	810	778	787																																														
イ:																																																				
ウ:																																																				
エ:																																																				
オ:																																																				
(2) 総事業費の推移	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																														
投 入 量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0																																													
		県支出金	千円	0	0	0	0																																													
		地方債	千円	0	0	0	0																																													
		その他	千円	0	0	0	0																																													
		一般財源	千円	1,509	1,604	1,847	1,941																																													
		事業費計(A)	千円	1,509	1,604	1,847	1,941																																													
人 件 費	正規職員従事人數	人	1	1	1	1																																														
		延べ業務時間	時間	10	15	15	15																																													
		人件費計(B)	千円	42	63	61	64																																													
トータルコスト(A)+(B)			千円	1,551	1,667	1,908		2,005			0																																									
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等																																																				
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか。	昭和63年に、第三セクターで開業した「真岡鐵道」に対する児童のマイレール意識の高揚及び社会体験学習として、教育課程に組み込んだ。 教育課程編成上、社会科見学を実施するのは困難な状況となってきた。																																																			
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	教育課程編成上、社会科見学を実施するのは困難な状況となってきた。																																																			
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	クラス数が多い大規模校からは、児童数が多く、社会科見学の実施が難しいとの意見がある。																																																			

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 教育課程の中で交通機関を利用するマナーや道徳心の涵養が求められており、健全な児童の育成に結びつく。市の施策に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 校外教育活動として教育課程の中に組み入れている。 第三セクター「真岡鐵道」の支援事業として実施している。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 教育課程の中で、小学生を対象に集団行動のきまりや、公共マナーの向上を図っている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 小学校2年生のSL体験乗車と真岡鐵道を利用した社会科見学を実施している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 公共交通でのマナーの向上を図る機会が少なくなる。 郷土愛やマイレール意識が育ちにくくなる。 真岡鐵道の利用促進が図りにくくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 社会科見学・SL体験に加え、第三セクター「真岡鐵道」の利用促進を図ることも目的としている。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 交付事務のみである。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 教育課程に位置づけられている事業であり、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画）

廃止 見直し (:目的妥当性 :有効性 :効率性 :公平性) 統合 継続

(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？

(3) 改革・改善による期待成果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述説明不足（説明責任不充分） 評価内容が客観性を欠く 評価内容は客観的と言える

(2) 2次評価者としての評価結果

①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性

廃止 休止 目的絞込み 目的拡充
 事業統廃合 事業のやり方改善
 予算削減 予算増大
 現状維持（從来通りで特に改革改善をしない）

(4) その他2次評議会議で指摘された事項

(5) 改革・改善による期待成果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			